（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	療育支援エフ　小笹教室			
○保護者評価実施期間	2025年2月1日	～	2025年2月9日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	33	（回答者数）	7
○従業者評価実施期間	2025年2月1日	～	2025年2月9日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　2月　10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者の生活空間を用途に応じて区切ることができ、十分なスペースを確保することができていること。	余暇時間を過ごすプレイルームも遊びに応じて区画を設けることや、遊び場所を提案することで、利用者のコミュニケーションの広がりにもつながっている。	遊び場所の提案や区画をより工夫し、十分なスペースの確保とともに、コミュニケーションの拡充にもつなげていきたい。
2	ミーティングを通して支援における共通意識を全員が把握することができている。	管理者の判断のみで支援の方針の意思決定をしていくだけでなく、ミーティングや普段のコミュニケーションを通して連携を深めることができている。	すべての職員が支援の質を担保することが出来るように、今後もミーティングなどの時間を通して職員間でのコミュニケーションを重視し、共通意識を徹底していきたい。
3	モニタリングについて	職員同士のコミュニケーションの良好さを活用し、利用者に対して多角的にモニタリングをすることができている。	職員全員がモニタリングをするという意識を浸透させることで、より確度のあるモニタリングをしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	災害や感染症が発生したときの対応について	定期的な訓練は行っているものの、実践する機会に乏しく、訓練通りに全体的に動くことが出来るか不透明な部分がある。	特に、感染症（発熱や嘔吐）が発生したときの対応については発生した際は迅速な対応が求められる。また、季節によっては発生することも多くなる為、定期的な訓練に加えて普段のミーティングの中でも振り返りと周知を行う。
2	他の関係機関との連携	担当者会議等で相談支援事業所との連携は多くあるが、学校や就学前の保育園などと連携する機会がそれほど多くないことが要因であると考えられる。	学校との連携は送迎時等により意識して取っていきたい。
3	事業所の地域社会との交流	ニーズとして近隣の地域社会との交流がそれほど重要視されていないことが原因でもあると考えられる。	外出イベントなどを通して地域社会との交流を図っていく。